

2014年度授業相互参観実施状況報告

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
法学部	1科目	1科目	本年度確認された方針は、新規採用された教歴のない教員について、関連授業の参観と、関連教員による当該教員授業の参観を実施するというものであった。本年度は該当する教員がいなかったが、来年度予定されているので、その準備として学部長が公開された科目の参観を行った。参観の結果については、授業評価アンケートと照らし合わせた上で、教授会において報告・紹介した。他の授業における講義等の方法については学科内の意見交換の場で紹介周知されているが、第三者の目からある程度の検証ができたことで、アンケートなどとの関連のもとで実施することの効果を確認できた。	予定されている新任教員相互参観を行うこと。 また、それ以外にも希望に応じて相互参観ができる体制・手続を整備すること。
文学部	70科目	6科目	あらかじめ公開科目を決め、それを一覧表にして教授会で配布している。desknet'sにも同ファイルをアップロードし、情報共有に努めた。特に、外部講師を招く授業やオムニバス形式の授業では継続的に相互参観を実施できた。前年度よりも参観者が減少した理由は、多忙のため、各教員が参観時間を確保できない上、各教員が試行錯誤の段階にあるからだと思う。	教員の授業相互参観を活性化させるために、文学部質保証委員会および教学改革委員会にて議論し、次年度への課題を検討した。その結果、授業の公開を学部全体で行う現行の相互授業参観の方式を維持し、さらに各学科で学科の特性に応じて、その年度のテーマ・内容を設定するなどの工夫を行って取り組み、授業運営の参考にすることを決定した。また、すでに各学科にて実施している個々の授業改善の取り組みを共有する研修会についても、引き続き行っていく。
経済学部	78科目	8科目	(1)実施方法 ①公開方法 経済学部専任教員は各担当科目のうち、原則1科目は、授業相互参観科目とする。 ②参観方法 経済学部所属教員は、所定の期間内にあらかじめ参観申込をしたうえで授業参観することとする。 ③公開期間 2014年10月27日(月)～10月31日(金) (2)授業実施者へのフィードバック等 参観申込み者には、執行部まで①授業担当者に対する感想、②授業相互参観制度に関する意見・感想の提出を依頼した。 ①授業担当者に対する感想については、授業担当者本人にフィードバックを行った。	(1)公開科目数に対して実施科目数が少なかつたため、実施時期直前の周知を工夫し、実施期間の延長等を検討し、実施科目数を増やし、経済学部の教育力の向上を図ることが今後の課題である。 (2)兼任講師を含めた授業参観の対応については、今後、検討していきたい。
社会学部	全科目	全科目	ゲスト講師制度を利用した外部講師を招いての授業は「公開授業」とすることが原則となっており、その方針のもと実施された(のべ科目数:39科目)。また、オムニバス型の授業(4科目)は、実質的に教員による授業相互参観がおこなわれており、授業の方法・内容に関わり、教員相互に刺激を与え合う機会となっている。	引き続き、教員が相互の授業の方法・内容について関心を持ち、授業相互参観を含め、その交流によって授業の方法・内容の改善を進めていくことを推奨していく。あわせて、ゲスト講師制度を利用した授業等、公開授業の情報の集約・周知を徹底していきたい。

2014年度授業相互参観実施状況報告

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
経営学部	・原則として専任・兼任・兼任教員による講義授業とし、演習等の小規模授業は除く。 ただし、公開するかどうかは各教員の自由に委ねた。	計21回(前年実施回数12回)	<p>(1)実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間:2014年6月2日(月)~7日(土)、9日(月)~14日(土)。実施について、教員にはメール等で、学生には掲示板を通して告知した。 ・参観の方法:具体は以下の通りである。 <p>①参観者の範囲と参観:経営学部の専任教員と兼任・兼任教員とする。</p> <p>②事前許可:原則として、参観者は、参観を希望する授業日の1週間前までにe-mail等で担当教員に直接申し入れる。ただし、専任教員授業の参観を希望する兼任教員、兼任教員授業の参観を希望する専任教員は、経営学部事務を通して担当教員に申し入れる。</p> <p>③入室および退室時間:授業の妨げにならないように、原則として、入室は授業開始前に、退室は授業終了後とする。ただし、授業途中での入室を希望する場合は、参観の申し入れの際に、その点をあわせて担当教員に申し入れる。</p> <p>④受講者への告知:参観教員がいることを受講学生にどう伝えるかは、各教員に一任する。</p> <p>・参観後のフィードバックと改善:参観後に、参観者は参考になった点等を公開教員に伝える。また、参観者があった授業の担当教員は、参観後1週間以内に、参観内容について経営学部事務に連絡する。</p> <p>(2)効果 参観した講義では、どの教員の講義でも随所に工夫が感じられた。参考にできる点を取り入れて講義を行えば、必ず改善につながると思われる。</p>	・参加者が少なく、執行部が参観する機会が多いため、教授会やメールでのアナウンスなど参加への呼びかけに一層努力したい。 ・教学問題委員会や質保証委員会、経営学部内で実施しているFD懇談会などの機会を活用して、議論する場を設け、授業相互参観に対する理解を深めるとともに、活性化する必要がある。
国際文化学部	専任教員が担当する全科目	10科目 (ただし、参観した授業には、本学部主催科目のほか、ILAC科目を含む)	2011年11月教授会で議決された方法、すなわち専任教員が担当するすべての科目を期間の制限なく参観できる、という原則の下、2013年11月教授会で決定された今年度の実施要領(専任教員全員が年間一回は参観することを義務づける)に従って実施した。	自分の授業を振り返る良机になったとする肯定的な意見がある一方で、参加の義務化や報告書作成が負担になるという否定的な見解も少なからずみられ、3月教授会での審議の結果、年間一回を二年間で一回に、また義務ではなく努力目標に改めることとなった。緩和された条件のなかで、どう実施率を上げていくかが課題であろう。
人間環境学部	全科目(全設置科目)	7科目	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期に行われる必修の初年次教育授業を実施する教員あるいは講師に対して、学部担当教員が常時、授業を参観したその実施状況が教授会にて適宜報告されたほか、2015年度以降の授業提供の際に生かされることとなり、授業内容を向上させるためのPDCAサイクルが機能していると認められる。 ・個別教員に係わる授業に関して学部を設置されている5コースのうち、3コース(エコ経済経営、環境文化創造、環境サイエンス)を選択し、それぞれに属するの3科目について秋学期後半に授業参観が実施された。各授業では、口頭による講義だけでなく、フォローアップを確認するためのエクササイズ(紙ベース)、配布プリントと連動したプロジェクターによる写真映像の提供、さらには対立した意見・見解を知らせるためのショート・ムービーの観覧など、色々な方法で、学生の興味や理解を高める工夫がみられた。 	・個別授業の相互参観を他のコースへも広げるとともに、学内の関連委員会や教授会への報告などの活動を一層行うよう努力していきたい。

2014年度授業相互参観実施状況報告

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
現代福祉学部	現代福祉学部専任教員の担当科目(ただし、演習・実習科目、情報・調査系科目、言語コミュニケーション科目、その他、担当教員が公開を希望しない科目を除く)	1科目	<p>(1)実施方法</p> <p>a.公開期間 春学期:2014年7月9日(水)~7月15日(火) 秋学期:2014年12月1日(月)~6日(土)</p> <p>b.公開範囲 法政大学教職員</p> <p>c.申し込み方法 事前申込制</p> <p>(2)効果</p> <p>以下のような点を中心に、教授方法の工夫や学生への対応など、教員間での学びを深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で外部講師を招いての講義があり、学生たちにとって貴重な経験となっていた。 ・担当教員の意向で公開講座として位置づけられ、通常の受講生以外の学生にも広く聴講を公開されており、受講生にとっても適度な緊張感が生まれていた。また学生からも活発な質問が交わされ、双方向の授業が展開されていた。 	参観者が少ない為、教授会等での教員へのアナウンスを含め、教員相互への理解の徹底を推し進めたい。
情報科学部	学部全科目 (2013年度より)	基礎科目およびカリキュラム改革準備のための科目を重点として7科目	昨年度は全授業を対象に現状把握が主な目的であったが、今年度は2015年度からはじまるカリキュラム改革の準備を主な目的とし、最初の1年次学生に配当となる授業あるいは類似の授業の中から特に数科目を選び実施した。学生の理解度に幅がある場合の授業の進め方等に幾つか改革の余地および他の授業への展開の可能性が見出された。	カリキュラム改革実施の最初の年となるため、授業料の新設や構成の変更および改革は多岐にわたる。これらの進め方に関して有用な授業方法の展開とそのフィードバックのため、引き続き、学部全科目を公開科目とし、重点課題を決め授業相互参観の継続が必要と考えられる。
キャリアデザイン学部	50科目	49科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を訪問して、他の教員(専任教員)の授業を参観した(6/30~7/12)。 ・複数担当者により数コマ開講されている授業では、担当者が集合した会議を実施した(兼任教員含む)。集合が困難な場合はウェブ上で会議を行った。 ・相互参加の効果として、他教員の授業運営の仕方を参観することにより、自らの授業への示唆につながったと考えられる。また、教員間の水準のチェックにつながったといえる。 ・複数開講科目については、シラバス内容の共有や、反省点・改善点のディスカッション等がなされたことにより、互いの状況を把握し、教育内容の標準化が図られた。 	基本的に今年度同様のやり方で進めていき、改善できるところは改善するなど、柔軟に運営していく。

2014年度授業相互参観実施状況報告

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
デザイン工学部 (建築学科)	16科目	16科目	デザインスタジオや卒業研究、卒業設計において、全クラス合同の講評会を行い、兼任を含む教員が相互に他の科目やクラスの内容について理解し議論できるようにしている。さらには、公開の講評会により学内外に対して学習成果を公開し、批評を受ける機会を設けている。 スタジオ科目、フィールドワークおよび修士設計、卒業設計での優秀作品と、卒業研究の梗概を、それぞれ学科発行誌「法政大学スタジオワークス」、「建築研究」に掲載することで達成状況を共有している。年度末に、全スタジオ(デザインスタジオ1～11、造形スタジオ、構法スタジオ、デジタルスタジオ)の担当教員が一堂に会し、設計教育の振り返りと、新年度方針について討議する機会を設けている。 各授業での活用資料や学生の学習成果はもれなくサーバーに蓄積されており、これを学生の自習のため、あるいは教員の授業改善のための参考資料として閲覧できる仕組みを設けている。	特になし
デザイン工学部 (都市環境デザイン工学科)	学科主催全科目(他学科学生との混成クラスを除く)	10科目	都市環境デザイン工学科主催の科目について、全教員(兼任も含む)を対象として、授業をビデオ撮影し、相互に参観できるようにしている。具体的には、授業冒頭10分間程度をビデオ撮影し、学内の共有サーバー(専任教員向け)、学科事務内の共有PC(兼任教員向け)にアップロードして適宜確認するようにしている。	概ね3-4年程度で全ての対象全科目を撮影・相互参観する
デザイン工学部 (システムデザイン工学科)	8科目	8科目	1年「導入ゼミナール」におけるフィールドワーク成果発表、3年「プロジェクト実習・制作1」・「プロジェクト実習・制作2」、4年「フィールドワークSD」・「応用プロジェクト」等クリアーシオン系、テクノロジー系、マネジメント系横断型必修講義、演習授業が設置されており各授業、演習授業において各教員の授業相互参観がなされている。	特になし
理工学部	* 専任教員が担当する全科目 (2014年度秋学期開講482科目) 機械工学科:103 電気電子工学科:59 応用情報工学科:59 経営システム工学科:71 創生科学科:148 学部共通:42	実施科目数21科目 参加教員数47名	1. 実施時期 2014年度 秋学期(9月29日(月)～12月13日(土)まで) 2. 実施方法 以下の2通りを実施した。 a) 個別授業相互参観 ・専任教員は、全ての担当科目を原則として、期間内授業相互参観可能な科目とする。 ・専任教員は、担当教員に連絡の上、所定期間内は自由に授業参観をすることができる。ただし、授業運営の支障とならないように、特に配慮する。 ・相互参観希望者は、科目担当教員と事前に、科目、曜日、希望参観時間(15分～90分 任意)を調整し、教室内等で参観する。 ・参観した専任教員は、必ず参観報告書(委員会提出用及び担当教員提出用)を記入し、各学科担当委員及び科目担当教員に、個別に提出する。 ・実施期間内に各学科の専任教員数の1/3以上の教員の参観を原則とする。 b) 学科に特化した柔軟な運用による公開(学科別) ・学科別にa)とは別の形式で、学科独自の柔軟な運用を含む授業相互参観について検討・実施する(例 PBL、実験・演習、オムニバス形式授業、研究室配属説明会、卒業・修士論文中間発表会を用いたプレゼンテーション能力の検討等)。	・授業相互参観の実施率の向上及び個別の授業参観報告書のフィードバック方法の検討 ・客観的な授業改善に関するチェックを簡易的に行えるシステムの検討(報告書含む) ・兼任講師を含めた、全授業における授業相互参観に関する検討 ・組織的な授業相互参観重点科目の検討
生命科学部	春学期64科目 秋学期55科目	春学期26科目 秋学期22科目	生命科学部では今年度、春学期(6月9日～7月5日)と秋学期(11月10日～12月6日)の2回、授業公開として法政大学の教職員向けに授業を公開し、その中で専任教員が相互に授業参観することとした。 講義を参観した教員の声として、復習テストの実施、学生による発表、教員の調査経験談の導入など、講義の工夫について参考になったとの意見があった。また、参観を受けた教員から、一定の緊張感があり講義を見直すきっかけになったとの意見もあり、授業公開のメリットが十分認められた。	次年度以降も同様の形態で授業相互参観を継続したいと考える。また、理工学部等他学部と共同で相互参観が可能か検討したい。

2014年度授業相互参観実施状況報告

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
グローバル教養学部	6科目	6科目	実施科目は、3科目で公開した。GISの専任教員と職員が参観できることとした。執行部が該当科目の授業を参観し、教授会において前期科目参観のレポートが提出され説明があった。アクティブラーニングの有効性と、学生の英語力向上への貢献が確認された。	授業参観の目的、実施方法、規模、効果などに関して教員間の認識を深めていくことが必要であろう。
スポーツ健康学部	全科目	16科目	2014年度は前年度の方式を改め、専任教員があらかじめ参観科目を申請し、事後に報告を求めるという形式を取った。 秋学期には、8人の専任教員がそれぞれ2科目を参観。前年度に比べ、実施実数が増えた。 「1つの模擬授業を班全員でつくり、振り返りまで行う手法を参考にしたいと思った」といった報告の例にあるように、相互参観で得るものを感じた教員もいた。 普段から、各教員が授業にはそれなりの工夫をしているはずだが、相互参観は、方法論の新たな選択肢を伝えてくれる可能性がある。	次年度は： ①教員全員に早い段階で参観希望を確認し、実施率を高める ②報告の結果を総括し、その成果を共有することで授業改善につなげる この2点を課題としたい。
市ヶ谷リベラルアーツセンター	全設置科目	13科目(32コマ)	本年度は、①通常の相互授業参観、②新人教員の研修を兼ねた授業参観、③ビデオカメラを利用したセルフ授業参観、以上3通りの授業参観を実施した。 ①については、教員間の時間調整が難しく、7回に留まった。 ②については、3名の新人教員によって、合計19回実施された。 ③については、3名の教員によって6回実施された。 それぞれの参観で、新たな気づきなどの効果が得られているが、特に「セルフ参観」では自己の授業について批判的な検証が可能で、その結果「話し方」「板書の仕方」など、通常教員同士では指摘しにくい、細かい授業態度の改善につながる気づきが得られた。	通常の相互授業参観については、その頻度をあげるための有効な方策が無い。 セルフ授業参観については、体験教員から好評を得ていることから、更なる周知を行い、その回数増加に努めたい。